

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0174300467		
法人名	医療法人社団 信診連		
事業所名	グループホーム あったか家		
所在地	北海道川上郡弟子屈町鈴蘭1丁目8番1号 (電話) 01548-2-8121		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年3月13日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年10月11日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.95人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000円	その他の経費(月額)	21,000~24,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	350円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	2名	要支援2				
年齢	平均	86歳	最低	79歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	弟子屈クリニック / JA摩周厚生病院 / 富本歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に面したピンクの目を引く建物で住宅地の中で民家を改装し、広い敷地内には、野菜畑や花壇、中庭があり、天気の良い日は、外気浴やバーベキューなど行事を行う場所に活用され落ち着いた生活が出来るようになっています。ホーム内は、花や観葉植物、壁の所々に絵画が飾られ、座敷のスペースも確保され、家庭的な雰囲気が感じられます。母体の医療法人の院長が毎日往診に訪れ利用者の健康管理を行い又、月2回、作業療法士が訪問してリハビリや体力測定を実施して利用者の身体機能を落とさないように取り組んでいます。「安心・安全な医療と介護の地域づくり」を目指している法人全体で連携を図りながら利用者の「安心・安全」な環境を提供出来るように日々取り組んでいます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、更に研修を受ける機会を増やす取り組みの点でしたが、法人内の研修や町主催の勉強会、グループホーム協議会の研修会に積極的に参加しており、伝達講習も実施されており改善に向けて取り組まれています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が基本を作り、細部を全職員で話し合い取り組んでいます。前回の外部評価は改善点を全職員で話し合い改善に向けて取り組んでおり、評価に取り組む事で内容を確認して援助内容やケアの質の向上に努めています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在1回実施されています。主な主題についてはホームの概要説明 年間の事業・行事の活動報告 運営推進会議の取り組み方
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、通信やケアプラン、領収書と金銭出納帳のコピーを同封し発送しており、面会のある家族にはその都度ケアプランの説明や近況報告を行っています。緊急性がある場合は、随時電話報告も行っています。面会時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心掛けており、時間が許す限り、家族と面談する機会を作っています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日課の散歩の際の挨拶や自治会の活動に参加しており、入居者が回覧板を届けたり、町内清掃も一部出来る範囲で行っています。又、町主催の敬老会・文化祭への作品の展示・催し物等には積極的に参加しています。更に、幼稚園児の来訪や中高生の修学体験の実習場所としての提供や、行事の際には高校生のボランティア部の受け入れなども行われています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の開放的な暮らし、ぬくもりを感じる家庭的な雰囲気作り、近隣の方々とのふれあいを目指し、住み慣れた地域の中で暮らし続けるように「ご近所や子供たち家族のようにふれあい」を理念として実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が、日常的ケアの中で理念を実践できるように、ミーティング等においてお互いの意見交換をし、共有している。又、ケアプランに理念が反映されているかを確認しながら実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日課の散歩の際の挨拶や自治会の活動に参加しており、入居者が回覧板を届けたり、町内清掃も一部出来る範囲で行っている。又、町主催の敬老会・文化祭への作品の展示・催し物等には積極的に参加している。		更に、幼稚園児の来訪や中高生の修学体験の実習場所としての提供や、行事の際には高校生のボランティア部の受け入れなども行われている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が基本を作り、細部を全職員で話し合い取り組んでいる。前回の外部評価は改善点を全職員で話し合い改善に向けて取り組んでおり、評価に取り組む事で内容を確認して援助内容やケアの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在1回開催されている。メンバーは、利用者家族、包括支援センター職員、地区区長、社協の職員、民生委員、ボランティアセンター職員及び管理者・職員で構成され、今後の取り組み方などを中心に話し合われている。		今後、運営推進会議をうまく機能させ、地域に向けたホームの役割や高齢者支援の拠点となるような議題も視野に入れて定期的開催することを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、出来るだけ直接足を運び町担当者と情報や不明な点を確認している。又、ホームの行事にも参加を呼びかけており、ホームの職員も町開催の講習会等に積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に広報誌やケアプラン、領収書と金銭出納帳のコピーを同封し発送している。面会のある家族にはその都度ケアプランの説明や近況報告を行っている。緊急性がある場合は、随時電話報告も行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見を聞き、苦情・相談を話しやすい雰囲気作りを心掛けており、時間が許す限り、家族と面談する機会を作っている。又、意見箱を設置し、入居時には、公的な相談機関を書面・口頭にて説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、入居者に影響がないように状態を把握し配慮している。又、異動や離職がある場合は新任職員が馴染むまで教育・指導の十分な期間を作り利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や町主催の勉強会、グループホーム協議会の研修会に積極的に参加しており、伝達講習も実施されており外部での研修を受ける機会の確保を心掛けている。又、ホーム内での月3回の会議の際にも独自でケア講習や勉強会も開催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じての、相互交流や勉強会や交換研修でグループホームの質の向上に取り組んでいる。又、活動を通じて意見交換を行い、相互の関係作りに努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した上でサービスを利用するために、事前に本人・家族宅を必要なだけ訪問し納得を得るまで説明し、可能であれば施設見学により雰囲気をつかんでもらいながら、徐々に馴染みの関係を作っていく事を心掛けている。又、数日間のお試し期間も取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行う調理では、野菜の切り方や味付けを教えて頂いたり、畑での作業では、土づくりや肥料のやり方・野菜の手入れ、普段の生活の中では、昔なつかしい歌やことわざなど多くの事を学ぶ機会があり、その中で喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式の私の気持ちシートで一人ひとりの意向や希望を全職員で共有し、日常の会話や表情の中からも本人の思いを把握するよう努めている。家族からも情報を聞き入れ本人本位の意向を検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式の活用で本人の視点で意向を介護計画に反映している。更に具体的に事故予防計画とケース担当による個別援助計画にて随時カンファレンスを開催し職員間で検討し家族の意見や必要な関係者と話し合い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のモニタリングにて必要があれば随時カンファレンスを行っている。又、月に3回職員ミーティングを行っており、その中で変化があれば即時見直しを行っている。期間の終了ごとに家族と話し合い介護計画の再検討を図っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>毎日の往診の他、ご家族の希望に応じて、歯科医への通院の支援や買い物や散歩などの支援を行っており、理美容院への訪問、気晴らしのドライブなど利用者ご本人、ご家族から要望があれば、都度検討して可能な限り実現に向けて取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日、母体法人の院長の往診を行い、関係を密にし、気軽に相談できる関係を築いている。又、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、母体法人の医療機関と連携して利用者・家族とも早い段階から話し合いをしながら慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。又、状態の変化に応じて随時家族・医師との話し合う機会を設けるようにしている。		ターミナルケアについての本人・家族の意向を入所時に書面にて確認し、重度化した際には、頻繁に医師や看護師が来訪出来るような体制になっており、過去に3件ほどターミナルケアを経験している。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を守る事を理念に掲げており、その人らしさを大切にしていける事を理解し実践している。また、職員は守秘義務を遵守する事に努め記録の扱いについても、十分に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員がセンター方式で利用者一人ひとりの気持ちが把握され共有されている。又、利用者の希望や思いを尊重し、買い物や調理や食事の準備、畑作業の役割への支援、絵を描くなどの趣味への支援、入浴や食事の時間や自室での食事など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や本人の希望もあり自然に役割が分担され共に準備・片づけをしており、出前や弁当持参での観光地での食事、年二回、そば打ち職人による食事会など食事を楽しんで貰えるように取り組んでいる。又、体調の変化に合わせた量やメニューの工夫もなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回を目安に本人の意向を確認しながら無理強いしないように心掛けている。入浴時間は希望に沿って変更の対応にも努めている。毎週、ボランティアより温泉を運んでいただいております、利用者も喜んで入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や日常の様子から発揮できる場を検討し、食事の準備、後片付け、玄関の掃除、畑作業の役割事や絵を描くなどの趣味活動にもさりげなく職員が手助けしながら自由に楽しめよう支援に努めている。又、買い物や気晴らしのドライブなども定期的に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏期間は本人の希望に沿って歩行状態にかかわらず、散歩・日光浴・買い物・畑作業などを自由に楽しめよう支援している。また、無理なく出来るだけ全員で砂湯公園・硫黄山・摩周湖・屈斜路湖など地域の観光地へのドライブに出かけられるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯以外は自由に出入りできる状況にあることで散歩や玄関掃除を利用者が行えており、職員は利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の緊急時対応マニュアルを作成し、年1回、消防署員立会いのもと利用者とともに避難訓練を実施している。		今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように運営推進会議で働きかけを行い、地域の人々を含めた火災避難訓練を実施し、地域との連携強化が図れるように検討している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師の指導を受けカロリー計算された献立と食事制限のある利用者等は医師から指示を受け適切な栄養・水分量の確保に努めている。日常の記録・健康管理表に水分摂取量を記載しており職員は状況を把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって心地よい音楽を流し、大きな音を出さないように注意を払い、眩しすぎない自然な採光により落ち着いた環境を整えるように配慮をしている。又、ホーム内は季節を感じる事が出来るよう装飾や花、観葉植物などを配置し、座敷のスペースもあり、一人で休憩できる場所も確保され、居心地よく暮らせるように努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込むよう働きかけており、家族との写真や本人の趣味の作品などを飾り、又、家族の一員として生活していた飼い猫と一緒に過ごされる方もおり、居心地よく過ごせる居室の環境作りに努めている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。